

浜通り復興リビングラボ

～サイエンス x 官民共創まちづくり～

令和6年6月19日

浪江町地域スポーツセンター秋桜アリーナ

復興庁

福島広域まちづくり班

参事官 石垣 和子

浜通り復興リビングラボ ～サイエンス×官民共創まちづくり～

背景・目的

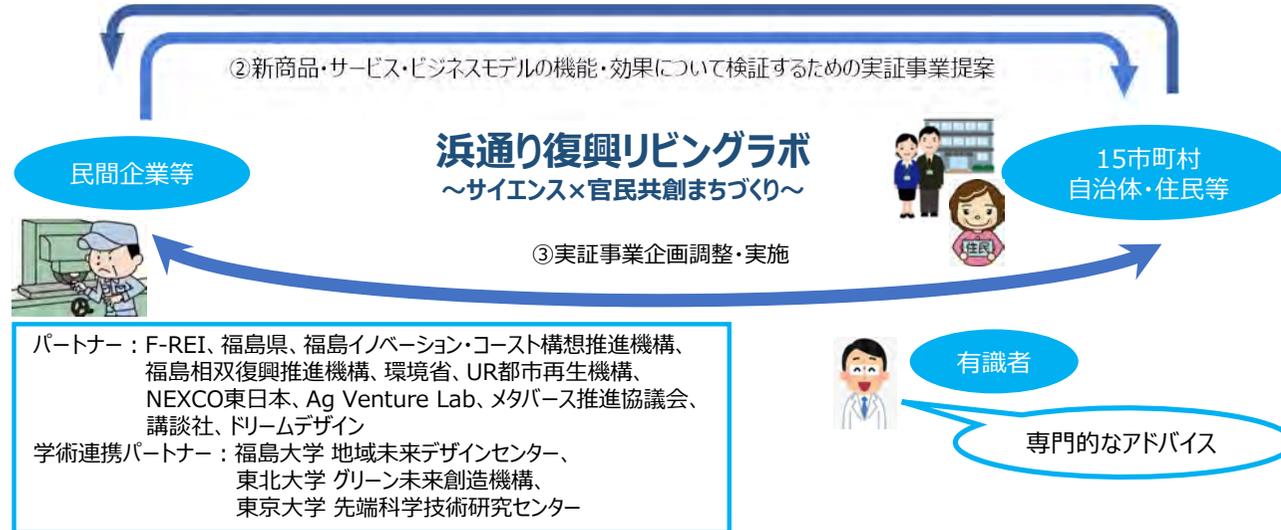
- ・福島国際研究教育機構(F-REI)が浜通りに立地することにより、国内外から研究者やその家族が浜通りに移住・定住することが想定され、浜通りでは、従来の住民や移住者はもとより、今後来訪する研究者のためにも**生活環境を向上**させていくことが期待される。
- ・F-REIにおいて、多くの実証事業が浜通り地域において実施されることとなり、**地元の実証事業受入能力**の更なる向上が必要。
⇒最新のサイエンスやテクノロジーを積極的に活用し、**住宅、医療、教育、交通、買物等の生活環境に係る地域課題の解決**につなげることを目指すとともに、**浜通り地域における実証事業受入能力向上**を支援するため、「浜通り復興リビングラボ」事業を実施する。

浜通り復興リビングラボ～サイエンス×官民共創まちづくり～

住む（住宅）、出かける（交通）、学ぶ（教育）、癒やす（医療）、楽しむ（買物・娯楽等）といった生活環境分野で、産学官の協働のもと、実証事業の企画・実施を行い、地域における生活環境向上につなげる。

①生活環境にかかる地域課題を説明

②新商品・サービス・ビジネスモデルの機能・効果について検証するための実証事業提案



※リビングラボ：生活の場（リビング）を実験場（ラボ）としてイノベーションを実践すること。

R6年度スケジュール

4月：4/5(金)実証事業参加企業公募開始
4/16(火)公募企業向け説明会
(地域課題共有)
4/18(木)企業間意見交換会@復興庁
4/23(火)現地視察

5月：5/31(金)公募〆切

6月：マッチング会議発表企業決定
第3回シンポジウム・マッチング会議

実施プロジェクト決定・発表
実証事業企画調整
調整が整った事業から順次実施
(原則としてR7年度末まで)

3月（予定）：成果報告シンポジウム
専門家による実証事業総評

今回の
シンポジウム！

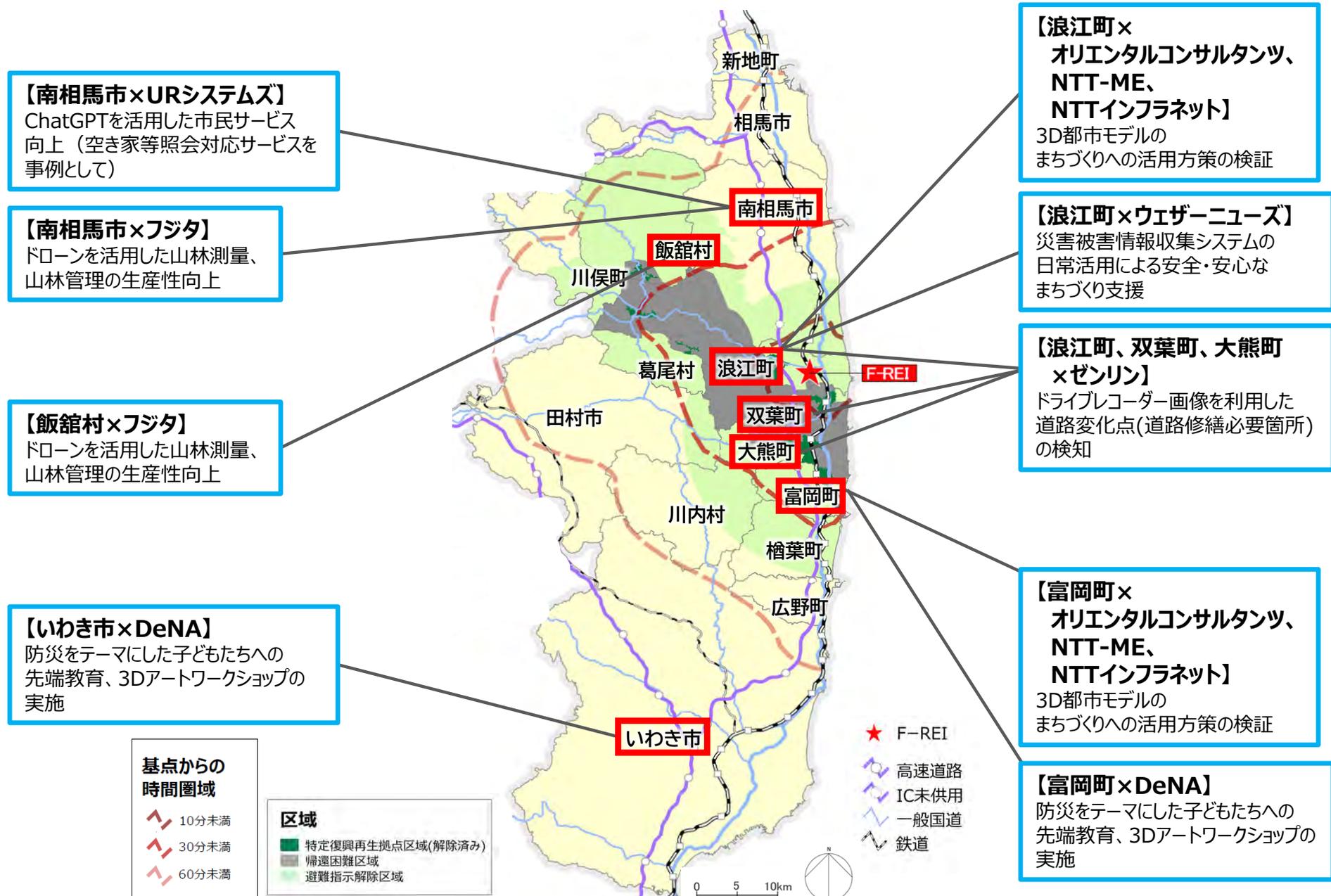
参加の主なメリット(自治体)

- ・民間企業の知見や財源を活用しながら、地域課題を民間企業と共に最新技術で解決する、**地元主体のまちづくり**を実感できる。
- ・未来のまちの姿に向け、地域住民が新商品・サービス・ビジネスモデルを使った**より良い暮らしを一足先に体験**することができる。
- ・実証から実装へ向けた展開を支援することにより、浜通りにおける**地域課題の解決**、ひいては**F-REI研究者受け入れ環境の向上**につなげられる。

参加の主なメリット(民間企業)

- ・地域住民が生活の中で抱える課題に即して、**新しい商品・サービス・ビジネスモデルの開発**を行うことができる。
- ・参加者募集や関係団体等との調整など、**受入自治体や復興庁、専門家の支援**が得られる。
- ・「福島復興」という**社会的意義のある目標**に貢献できる。
- ・技術的な課題について、**将来のF-REI研究との連携も視野**に入る。

浜通り復興リビングラボ 【令和5年度開始の実証事業】



みんなで つくっていこう

魅力ある「ふるさと」を目指して チャレンジする浜通り

Co-creation (共に)

地域課題の解決に向けて
産学官民の多様な主体による
パートナーシップ形成や広域連携を促進し、
新たな価値を共創する

Innovation (新しく)

異分野の連携、デジタルとリアルの融合、
最新のテクノロジーの活用など、
失敗を恐れず挑戦し、イノベーションを創出する

Inclusion (みんなで)

昔からの住民も、新しい住民も、
多様なバックグラウンドを持つ人が
一緒にワンチームで地域をつくる

Well-being (幸せ)

これまで育まれてきた自然・文化など、
地域の個性や特色を大事にしながら、
新しいものも取り入れ、生活を豊かにする

Sustainability (いつまでも)

創造的復興、持続可能な地域社会を実現し、
魅力ある浜通りを次世代の若者や子どもたちに引き継ぎ、
全国・世界にも発信していく

浜通り復興応援ビジネスネットワーク（通称：チーム浜通り）

【目的】リビングラボ事業等を通じて、福島県浜通り地域等における復興の状況や復興施策など情報共有しながら、会員間での連携を推進する。

【パートナー：計11機関】福島国際研究教育機構（F-REI）、福島県、福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島相双復興推進機構、環境省、UR都市再生機構、NEXCO東日本、**Ag Venture Lab**、メタバース推進協議会、講談社、ドリームデザイン

【学術連携パートナー：計3機関】福島大学 地域未来デザインセンター、東北大学 グリーン未来創造機構、東京大学先端科学技術研究センター

【会員企業：計39社】 ※赤字はR6年度実証事業提案企業、青字はR5年度実証事業実施企業

業種	社名	業種	社名	
情報通信業・ITサービス	(株)ウェザーニューズ	建設業・住宅	會澤高圧コンクリート(株)	
	NTTインフラネット(株)		大林道路(株)	
	(株)NTT-ME (NTT東日本グループ)		首都高技術(株)	
	(株)ガバメイツ		首都高速道路(株)	
	キュレーションズ(株)		大成建設(株)	
	国際航業(株)		大和ライフネクスト(株)	
	(株)ゼンリン		(一財)日本みち研究所	
	ソフトバンク(株)		パナソニックホームズ(株)	
	大日本印刷(株)		(株)フジタ	
	(株)DeNA		コンサルタント業	(株)アバンアソシエイツ
	(株)電通総研		(株)NTTデータ経営研究所	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	MONET Technologies(株)		(株)キャドセンター	(株)構造計画研究所
	(株)URシステムズ		(株)構設計画研究所	デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー(同)
サービス業	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)	(株)ふたば	その他	住友商事(株)
	(株)博報堂	(株)スマートアグリ・リレーションズ		(株)チェンジホールディングス
	(株)ベネッセコーポレーション	(株)チェンジホールディングス		(株)トラストバンク
(株)ヤママップ				
医療・ヘルスケア	(株)アルム			
	MBTリンク(株)			

令和6年3月：リビングラボ事業の進め方の改善策を検討

令和6年4～5月：新規実証事業提案

- ①市町村から生活課題を民間企業に説明（オンライン）
- ②浜通り地域等見学ツアー（希望者）
- ③民間企業からの実証事業提案

**令和6年6月：令和6年度第1回シンポジウム
マッチング会議にて民間企業の提案を自治体に説明**

令和6年7月～：市町村・民間企業の個別交渉
交渉が成立したペアーから、実証事業開始
（原則として令和7年度末まで）

令和7年3月（予定）：成果報告シンポジウム

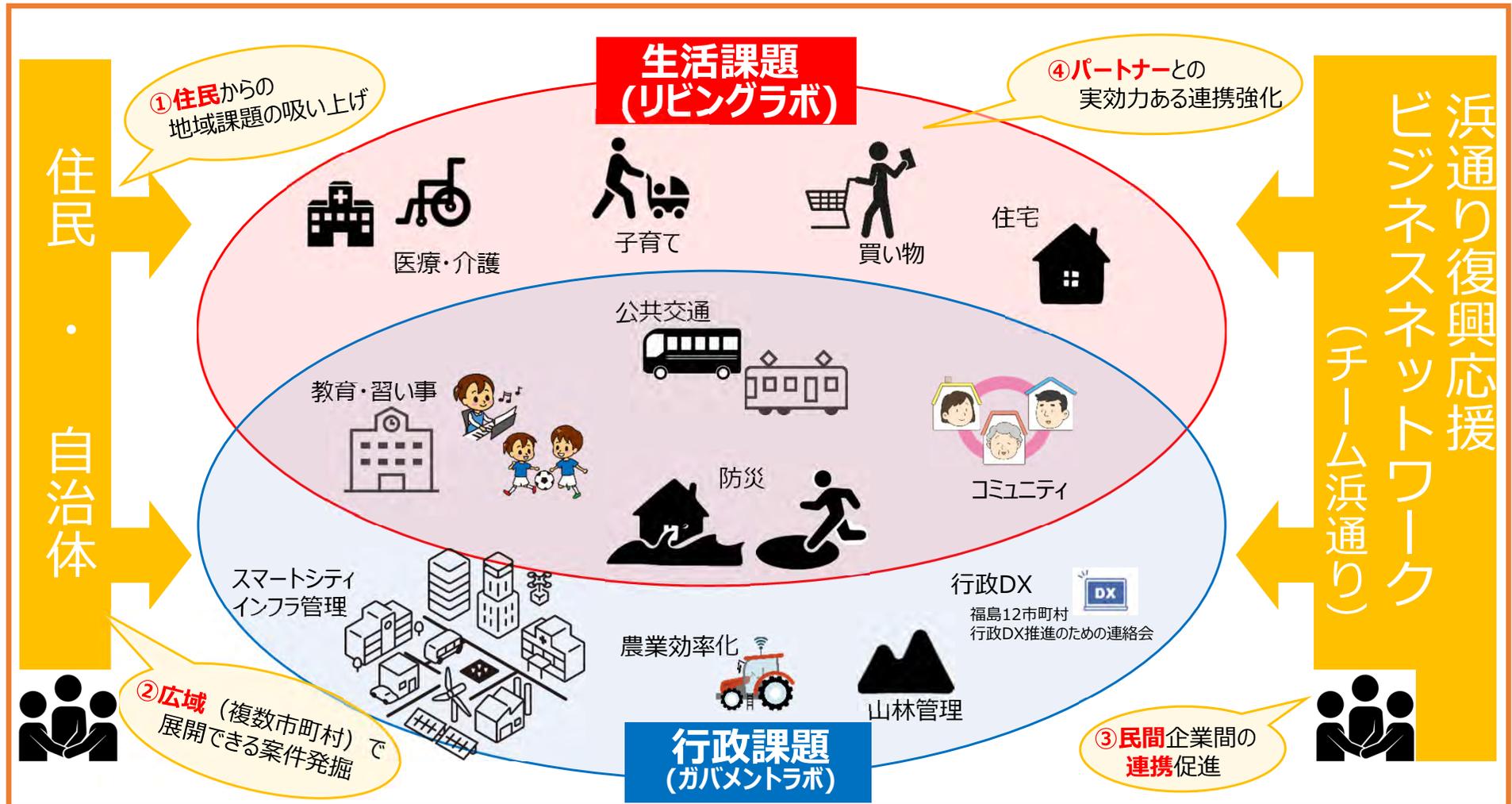
浜通り復興リビングラボ 今年度の方向性

【浜通り復興リビングラボ宣言】

みんなで つくっていこう

魅力ある「ふるさと」を目指して チャレンジする浜通り

Co-creation (共に) ・Innovation (新しく) ・Inclusion (みんなで) ・Well-being (幸せ) ・Sustainability (いつまでも)



①住民意見吸い上げ：
最初のステップとして、15市町村女性職員ヒアリング
→スペシャルセッションにて発表！

1 5市町村女性職員ヒアリング

目的：ご自身の経験、ご家族や近隣の方から見聞きしたこと、役場の仕事を通じて住民からお聞きしたこと等を踏まえ、女性の観点、生活者の観点から生活課題を挙げてもらうため。

日時・対象者： ※年代、既婚/独身等、多様な方を市町村よりご推薦いただいた。

- 5月8日 : 田村市 (6名)、葛尾村 (4名)
- 5月9日 : 南相馬市 (6名)、飯舘村 (5名)
- 5月15日 : 富岡町 (5名)、楢葉町 (3名)、大熊町 (2名)
- 5月16日 : 双葉町 (3名)、川内村 (4名)、新地町 (8名)
- 5月20日 : いわき市 (5名)、広野町 (4名)、浪江町 (5名)
- 5月21日 : 相馬市 (5名)、川俣町 (4名)

<番外編> F-REI女性職員ヒアリング

5月20日 : 5名ヒアリング

ヒアリング対象者合計 : 74名



②広域連携促進のための基本資料として、
15市町村現況マップの作成
→本シンポジウム資料として公開！

福島浜通り地域等15市町村の現況マップ

(R5. 6. 1ver.)

1. 浜通り地域等15市町村の概況	3
①広域交通網と時間距離	4
②避難指示区域の状況	6
③福島復興再生拠点整備事業の状況	7
2. 浜通り地域等の基本的な生活機能	8
①住宅	9
②医療	10
③教育	13
④保育所等	14
⑤屋内遊び場	15
⑥買い物環境	16
⑦金融機関・郵便局・ATM	18
⑧観光	19
⑨公共交通	20
⑩警察・消防署	22
3. F-REIとの機能連携が想定される施設等	23
①ロボット	24
②農林水産業	27
③エネルギー	28
④放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用と病院関係	30
⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信	31
⑥インキュベーション施設	32
⑦コンベンション施設	34



③民間企業間の連携促進 →企業間意見交流会を開催！

企業間意見交流会

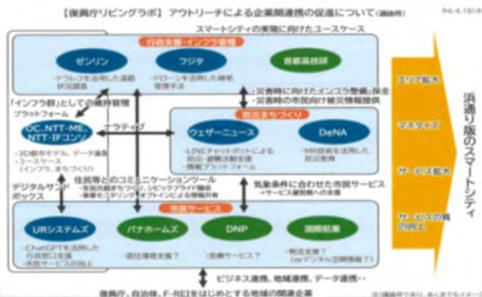
日時：令和6年4月18日(火)15:30～17:30

会場：復興庁1202会議室、Teams(オンライン)併用

参加者：(企業) 計11社 約35名

内容、主な意見：

- ・自社の強み、チーム浜通りへの参加動機、期待など発表
- ・オリエンタルコンサルタンツより
企業間連携促進について提案
(参加者の協働にて**浜通り版スマートシティ化**を支える
ことを提案)
- ・住民の目線を取り入れ、住民や地域のためのまちづくりであることを意識すべき。その上でビジネスで支援するチーム
となりたい。



④「チーム浜通り」パートナーとの 実行力ある連携強化

パートナー

福島国際研究教育機構 (F-REI) :

実証事業への技術的助言 等

福島県 :

地元企業の紹介、広報協力 等

福島イノベーション・コースト構想推進機構 :

地元企業の紹介 等

福島相双復興推進機構 :

地元企業の紹介 等

環境省 :

「脱炭素×復興まちづくりプラットフォーム」活動及び会員企業の紹介

UR都市再生機構 :

まちづくりに係る技術的助言や地元情報の提供 等

NEXCO東日本 :

実証事業の場の提供 等

AgVenture Lab :

農業・食分野技術に係る技術的助言、企業紹介 等

メタバース推進協議会 :

メタバース技術に係る技術的助言、企業紹介 等

講談社 :

リビングラボの発信・広報協力、企業紹介 等

ドリームデザイン :

ソーシャルビジネス関係の企業紹介 等



学術連携パートナー

福島大学 地域未来デザインセンター :

地元大学としての技術的助言 等

東北大学 グリーン未来創造機構 :

特に理系分野を中心に、技術的助言 等

東京大学 先端科学技術研究センター :

リビングラボについての技術的助言 等

浜通り復興リビングラボ【令和6年度公募提案に向けた取組】

地域課題説明会

目的：浜通り地域等における生活環境に係る課題を自治体から民間企業に説明

日時：令和6年4月16日(火)13:30～15:30

会場：Teams(オンライン)

参加者：(自治体)いわき市、相馬市、田村市、南相馬市、広野町、富岡町、大熊町、浪江町、新地町、川内村、葛尾村、

(企業) 計17社 約50名

(パートナー)福島県等3団体 4名

課題例：学外学習の選択肢が少ない

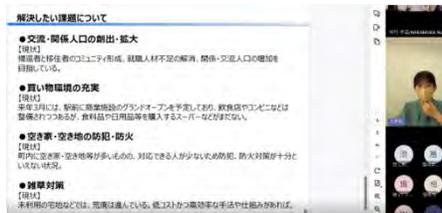
・休日の子供の預け先がない

・地域ブランディングができていない

・マイナカードの活用方法が不明

・低コストかつ高効率な雑草対策

※下線自治体が当日課題を説明。



企業間意見交流会

目的：参加企業間の連携促進

日時：令和6年4月18日(火)15:30～17:30

会場：復興庁1202会議室、Teams(オンライン)併用

参加者：(企業) 計11社 約35名

内容、主な意見：

・自社の強み、チーム浜通りへの

参加動機、期待など発表

・オリエンタルコンサルタンツより
企業間連携促進について提案

(参加者の協働にて浜通り版スマートシティ化を支えることを提案)

・住民の目線を取り入れ、住民や地域のためのまちづくりであることを意識すべき。その上でビジネスで支援するチームとなりたい。



現地視察ツアー

目的：浜通り地域等における生活環境に係る課題を現地で民間企業に説明

日時：令和6年4月23日(火)8:45～18:15

視察先：川内村、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町

参加者：(企業) 計9社 19名

(パートナー) 福島県等3団体 4名

川内村



いわなの郷にて未来デザイン会議
メンバーと意見交換

富岡町



① 富岡町サテライト
オフィス施設視察
(職員マックス氏
より説明)



② 車窓より中央商店街、夜の森地区を視察
(株)ふたば社員より説明)

大熊町



大熊町役場職員より
大川原地区の交流施設、住宅、
福祉施設等紹介

双葉町



①ふたばプロジェクト職員より双葉駅東口及び西口住宅を紹介



②同職員が
双葉町産業交流センターにて
屋上より双葉町の現状説明

浪江町



①浪江町職員が大平山霊園
より請戸地区を紹介



②浪江町地域スポーツセンターにて
F-REI職員よりF-REI紹介
浪江町役場職員と民間企業が
地域課題に関して意見交換

第63回 国家戦略特別区域諮問会議
(令和6年6月4日)資料

新技術実装連携“絆”特区が目指す姿（目標）

- 地理的に離れた複数の自治体が連携して、共通の課題解決に取り組む「**連携“絆”特区**」として、両自治体の連携による取組を強力に推進する。
- **買い物困難等**の共通の地域課題を抱える**福島県及び長崎県が連携**し、両地域のポテンシャルを活かしながら、離島等の地域や移動が困難な方々をはじめ、様々な地域・方々にとって利便性の高い**ドローン配送を全国に先駆けて実現**するなど、**新技術の早期実装**を図る。

【福島県】

ドローン関連の 技術・産業の先進地域

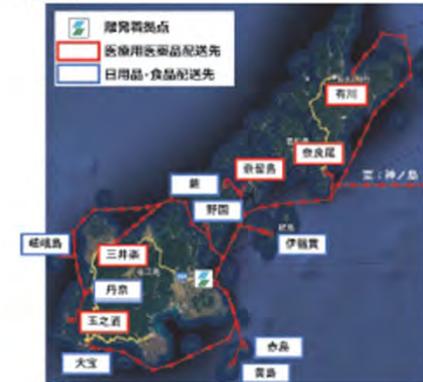
- 「福島ロボットテストフィールド」において、900を超える実証事業
- 周辺には約80社のロボット関連企業が新規進出



【長崎県】

日本一の有人離島数 ドローン実証の先進地域

- 海上での日用品等のドローン配送を実装済
- 地域住民や事業者の理解・参画により、多数のドローン実証を実施



主な政策課題

- 離島・中山間地域等における**物流・配送**をはじめ生活関連サービス（医療、教育等）の**維持**
- **新産業創出等**による**地域活性化**

主な取組 - ドローンの活用等による地域課題解決 -

- 規制・制度改革により、安全性を確保しつつ、**段階的にドローンの配送サービスを実装・拡充**。
 - ① **レベル3.5飛行**（補助者を要しない無人地帯飛行）により**実施可能なエリアでの配送**
 - ② 型式認証の取得促進を通じた**レベル4飛行**（有人地帯飛行）の**実現・参入促進と市街地での配送**（特定の経路を飛行）
 - ③ **レベル4飛行**による**市街地でのオンデマンド配送**（特区において飛行申請時にエリア単位での飛行経路の申請を可能とする）
- 圧縮水素の貯蔵量上限の緩和により**水素社会を実現**。
- このほか、新産業創出、医療、教育など様々な分野で、**課題解決のモデル地域**として継続的に取り組む。

浜通り復興リビングラボ【令和6年度提案一覧】

	社名	実証事業名（仮）
1	国際航業株式会社	3D空間データ活用によるデータ配信・流通サービス実証 3D空間データ基盤の活用により、データ配信と流通によるサービス実証を実施する。例えばドローン物流等を想定する。
2	大日本印刷株式会社	行政窓口のユニバーサル対応事業 聴覚障がい者や外国人に対応した「DNP対話支援システム」や分身ロボットによりユニバーサル対応を実現し、自治体窓口業務や福祉業務の負担軽減効果を検証する。
3	大日本印刷株式会社	ドローン等を活用した獣害対策事業 ドローン搭載カメラからの撮影による害獣モニタリング・生息域調査と、ドローン搭載ライトや超音波発信スピーカー等による害獣追い払い対策の方法や効果の検証を行う。
4	大日本印刷株式会社	服薬サービス事業（ドローンによる調剤配達、リモート服薬管理サポート） ドローンによる医薬品の配達や、高齢者世帯等に対し遠隔地から服薬サポートを行うシステムの検証を行う。
5	MBTリンク株式会社	電力データ（ライフスタイルセンシング）およびバイタルデータを活用した健康管理/見守りサポート事業 電力センサを活用したライフスタイルセンシングにより、遠隔地からリアルタイムでの見守りを可能とするシステムに、バイタルサインデータの計測を加え、健康状態の見守りを行うと共に、病気の早期発見・早期対応にも貢献、医療施設や自治体の労務及びおよびコスト削減への効果を検証する。
6	株式会社ウェザーニューズ	自治体全部門を対象とした気象情報活用による業務効率化の有用性検証 極端化する気象現象を踏まえ、自治体各部門において、ウェザーニューズが保有する気象情報を活用する余地及びその効果を検証する（例：学校における熱中症対策、イベント開催可否判断等）。

浜通り復興リビングラボ【令和6年度提案一覧】

	社名	実証事業名（仮）
7	株式会社キャドセンター	3Dブラウザマッピングで解決する有害鳥獣増加対策 3D都市データ、ブラウザによるデータマッピングなどの最新技術を利用して有害鳥獣被害状況を把握し、効率的な対策計画を立案、対策効果を検証する。
8	株式会社キャドセンター	3D都市データを使ったバーチャル観光&商店街構築 3D都市データを活用し、観光スポット等をバーチャル体験できるコンテンツ（仮想商店街等）を作成、観光客誘致、買物支援への有用性を検証する。
9	首都高速道路株式会社 首都高技術株式会社 セーフィー株式会社	道路パトロールシステムを活用した防犯・インフラ管理支援 首都高速道路のリアルタイム遠隔監視パトロールシステムを活用し、防犯や道路をはじめとする社会インフラ管理への適用可能性について検証する。
10	株式会社NTTデータ経営研究所	自治体職員のまちづくりマネジメント力向上研修プログラム開発 実証事業を通じた復興まちづくりの効果的・効率的な推進には、高度なマネジメント力が必要とされる。都市運営に係る国際標準や都市評価指標を組み合わせ、まちづくりに携わる自治体職員に最適化された研修群を開発し、その有効性を実証する。
11	株式会社フェイス (AgVentureLabご紹介)	カーボンクレジットを活用した脱炭素型・高収益稲作体系の検証と普及 水位センサーと衛星画像処理技術により、水田の中干し延長によるJクレジットを簡易に生成するモデルを開発し、検証する。生産性低下リスク回避のため、中干し延長と、ストレス耐性資材や種子処理技術を組み合わせ、脱炭素と高収益を両立する稲作モデルを検証する。
12	株式会社Agnavi (AgVentureLabご紹介)	日本酒一合缶を通じた新しい飲酒スタイルの醸成と地域産品の発信 浜通りの日本酒の一合缶商品を企画、開発、販売を実施し、新たな飲酒スタイルを醸成することで販路拡大できるか検証するとともに、海外への発信につながるかを実証する。

【参考】浜通り復興リビングラボ【大臣発言（抜粋）】

令和6年5月10日：第3回シンポジウム 開催のご案内

復興庁では浜通り地域等における生活環境向上のための官民連携の実証事業プログラム「浜通り復興リビングラボ」を昨年度から開始しております。具体的には、6つの実証事業が7市町村8民間企業の御参加を得て取り組まれているところがございます。

本年度も新たな実証事業の御提案を募集しているところですが、よりこの取組を発展させるために、第3回「浜通り復興リビングラボ」シンポジウムを開催いたします。6月19日に浪江町にて行いますが、当日は本年度の民間企業ご提案が発表されるとともに、生活者、女性の視点でリビングラボ活用に向けた議論をいただくスペシャルセッションを行いたいと思います。エフレイの山崎理事長や自治体、企業のトップによりリビングラボの方向性を議論いただくハイレベルセッションも予定をしております。

復興庁が支援する新しい取組でありまして面白い議論になると思いますので、是非多くの方に御参加いただければと思っております。

(問) 今回、3回目というところで、これまで1、2回、昨年度から始められたというところで、なかなかのハイペースかなと感じるところもあるんですけども、そうした中で復興庁として感じられている成果、今後望む効果、そして今回3回目ということで、女性の視点というか、そういったところが新しいところかなとお見受けしたんですけども、そこに期待されることについて教えてください。

(答) 令和5年度は初年度でございまして、試行錯誤もあったんですけども、御参加の民間企業と受入れ地元自治体との間で良好なパートナーシップが形成され始めたことが最大の成果と考えております。

この良好な関係を踏まえまして、昨年度実施された6つの実証事業全てが今年度も継続して実施されると伺っております。参加企業と自治体の皆様との間で取組が継続され、実りある実証事業となることを期待しております。

また、新規提案も募集しているところがございますけれども、特に医療や教育など生活課題を反映した提案や広域連携を促進するような提案を期待しております。

女性の視点からということもございますけれども、私自身も大臣就任以来、いろんなところで復興は女性が底力として存在しているということ認識をしております、是非こういう生活者の視点、女性の視点から表にそういう女性の様々な考え方が表れて、そしてそれが実際にリビングラボの中に反映していただければと考えているところがございます、今回の実証事業等を期待しているところがございます。

【参考】第2回 復興庁シンポジウム「浜通り復興リビングラボ～サイエンス×官民共創まちづくり～」

- 令和5年度から開始したリビングラボ実証事業の進捗状況や課題等を共有し、今後の方向性を議論するため、シンポジウムを開催（約190名参加）。
- 同シンポジウムにて、民間企業8社・7市町村による6つの実証事業について報告するとともに、「浜通り復興リビングラボ宣言」が取りまとめられた。

○日時：令和6年2月28日（水） 13:30～17:00

○会場：富岡町文化交流センター 学びの森 ※オンライン併用

○参加者：約190名

福島浜通り地域等13市町村（いわき市、相馬市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、富岡町、川内村、大熊町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）：37名（うち首長・副首長6名）
 民間企業：17社 60名
 パートナー：40名（福島国際研究教育機構（F-REI）、福島県、福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島相双復興推進機構、メタバース推進協議会）
 学術連携パートナー：4名（福島大学）
 復興庁関係：17名（平木副大臣、開出事務局長、宇野統括官、荒井局長他）
 その他（一般、メディア）：28名

<実証事業の進捗状況報告>

令和5年度から実施しているリビングラボ実証事業として、**民間企業8社・7市町村から6事業の報告**があり、福島大学・小山教授、東京大学・近藤准教授が講演。

①(株)オリエンタルコンサルタンツ・(株)NTT-ME・NTTインフラネット(株)

×富岡町・浪江町 3D都市モデルのまちづくりへの活用方策の検証

②(株)ウェザーニューズ×浪江町

災害被害情報収集システムの日常活用による安全・安心なまちづくり支援

③(株)DeNA×いわき市・富岡町

防災をテーマにした子どもたちへの先端教育、3Dアートワークショップの実施

④URシステムズ(株)×南相馬市

ChatGPTを活用した市民サービスの向上
 （空き家等照会対応サービスを事例として）

⑤(株)ゼンリン×大熊町・双葉町・浪江町

ドライブレコーダー画像を活用した
 道路変化点（道路修繕必要箇所）の検知

⑥(株)フジタ×南相馬市・飯舘村

ドローンを活用した山林測量、山林管理の生産性向上



進捗状況報告の様子

○石垣参事官から「浜通り復興リビングラボの今後に向けて」説明

・浜通り復興リビングラボについて、コンセプト、令和5年度の実施状況及び今後の予定を説明。

○先進事例紹介①(MONET Technologies(株)×奥州市)

・岩手県奥州市での医療MaaSの取組について紹介。

○先進事例紹介②(パナソニック ホームズ(株))

・福島県伊達市でのスマートシティの取組について紹介。



平木副大臣開会ご挨拶

○ハイレベル・セッション（モデレーター：福島大学・小山教授）

- ・F-REI・山崎理事長、富岡町・山本町長、浪江町・吉田町長、フジタ浅川専務、オリエンタルコンサルタンツ・野崎社長、に登壇いただき、浜通り地域等におけるリビングラボの方向性について議論。
- ・住民からの具体的な生活環境の課題吸い上げができる仕組みづくりが課題、広域で連携して共通課題を解決したい、想いを一つに、ワンチームでチャレンジしていくことが大切、地元企業に成果を伝承し共創したい、心の豊かさを求める取組が出来ると良い、魅力ある浜通りを次世代に引き継ぎ、得られた知見を世界に発信していきたい、といった意見があった。
- ・議論の成果として、「浜通り復興リビングラボ宣言」を取りまとめた。



先進事例紹介



平木副大臣と登壇者の集合写真



ハイレベル・セッション



ご静聴ありがとうございました。